

古河電工産業電線

22年度 営業益6倍目指す

アルミ電線拡販、新製品投入

古河電工産業電線（本社・東京都荒川区、社長・松本康一郎氏）は2022年度までの5カ年で営業利益を17年度実績比で6倍に引き上げる。施工性に優れる軽量なアルミ電線を建設関連などの市場で拡販し、年間50億円規模のビジネスに育てる。併せて自動車や船舶向けなど成長市場に対し新製品の投入を加速。顧客ニーズに合わせて高付加価値品の売上比率を増やしながら収益力を強化する。売上高は約400億円で同3割増が目標。

松本社長は「建設関連だけでなく、船舶や溶接関連の分野でもアルミ電線の採用を拡げていきたい」と期待している。

産業用のゴム絶縁電線など機能線事業では新製品で毎年10億円の

建設・電販用を中心とする汎用線事業では、アルミ導体の電線に注力。同社のアルミ電線は素材が持つ軽量・低コストな特性に加え、設計の工夫で柔軟性が高いことが特長。

配線作業性に優れ、建築現場での人手不足対策に貢献する。今後はアルミ電線用に最適化した接続部材や工具を一括提案し、施工性や信頼性をさらに高めるなどして供給を拡大。

売上げを確保。自動車分野では電動化に対応するテーマで製品開発に注力する。さらに船舶分野では海外メーカーと連携した取り組みを視野に入れる。併せて柔軟かく配電盤な

どへの配線がしやすい可とう性難燃ポリエチレンケーブル（LMFC）など既存製品の販売もさらに強化。九州工場（北九州市門司区）の増強も進める方針。

